

# 三月例会御案内

(平成十九年)

## 財団法人 協和協会

△△△長 塩川 正 十 郎

### ○ 御案内

三月二十三日(金) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五六五回)

講 題 ウォームハートによる社会保障制度を提案する

講 師 大野功統衆議院議員、元自民党年金制度調査会長・社会保障調査副会長・防衛庁長官

わが国は、なお膨大な財政赤字を抱え、また、少子・高齢社会へすでに突入しているいま、私ども日本人は、年金にせよ、健康保険にせよ、介護保険にせよ、果して、今後、これら社会保障制度が維持・継続できるのかどうか、大層不安に感じているところでもあります。

これらの政策は、日本経済ばかりではなく世界経済の動向とも関連することであり、かつ、長い年月にわたることなので、向後の予測は大層むずかしいことではありますが、しかし、そうした事態をも織り込みつつ、しっかりしたわが国・社会保障制度の構想・政策が、ぜひとも必要であります。

そこで、今回は、大蔵省出身で衆議院議員勤続二十年、政策の各分野に精通し、予算委員も務めておられる大野功統先生が、今後の社会保障制度のあり方について、近年、貴重な見解を表明されておられますので、御解説いただくことにしました。重要課題、奮っての御参加を！

(清原記)

▽ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

### □ 御報告

去る二月二十日の月例会は、エネルギー問題の権威・芦田譲(京都大学大学院工学研究科教授)に、「新エネルギーの開発こそ国家存亡の急務——可能性ある新エネルギーにつき解説」と題して御講話いただきました。その要旨は、石油など化石エネルギーが枯渇に向かい、世界各国がその争奪戦を演じており、また、そうしたエネルギー使用により地球温暖化が進行して、

(左頁へ)

世界は深刻な事態を迎えている。特に、埋蔵資源のない日本の事態は深刻であり、急いで総合的なエネルギー対策を進めなければならない。

そのためには、芦田先生が推進し当団体が支援してきた海底資源探査船を数隻早急に建造して、領海内の資源を探查する必要がある。また、日本の技術の総力を挙げて、太陽光・風力・水力・工場廃熱、バイオマスのより効率的な活用に取り組みべきであり、その中でも、火山国日本として着目すべきは「地熱の有効利用」であると力説され、一同、熱心に聞き入り、当協会も、改めて、エネルギー政策への取り組みへ、決意を新たにいたしました。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十四本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、新堀、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

○ 三月二十三日(金) 出 欠 (いずれかに○印——昼食弁当を用意するためにも)